退任にあたって

前校長　高橋　貢（昭和47卒）

この3年間、式典や集会のたびに、生徒には意図的に夏目漱石の話をしてきた。

西洋文明が怒濤の勢いで押し寄せた明治の時代に、外圧に流されない内発的開化を主張した漱石の生き方や世界観が、今の時代でも本質を突いていると思ったからである。また、自国の権利を主張し合い、いさかいの絶えない今の国際社会を見ても、人間のエゴイズムの超克をテーマにした漱石の作品は、極めて現代的であり、また永遠のテーマを含むと考えたからである。

それに、私はひそかに、秋高の校歌には漱石の文学精神が息づいているのではないかと思っている（これについては漱石マニアの牽強付会と失笑されるのが落ちであり、生徒にも話したことはない）。

実は、校歌を作詞した土井晩翠と漱石の間には、浅からぬ「因縁」がある。二人とも当時は数少ない日本人の英文学教師であり、ともに漢詩文への教養が深い。何よりも晩翠は漱石を先輩として尊敬しているし、漱石がロンドンへ留学中、訪ねて行って10日近くも泊まっている。その後も晩翠は漱石山房へ出入りしており、交流は浅くはない。

校歌四番の「敬天愛人」は、晩翠の「天地有情」とも通じるし、漱石の「則天去私」をも髣髴とさせる言葉である。「理想を高くおのれを修めて世のためつくす」は、いわば本校の伝統的精神を象徴している箇所であるが、まさにこの言葉は、漱石が教育論である『愚見数則』をはじめとしていろいろなところで述べている内容でもある。「漱石信者」である私の妄想という誹りを受けるかもしれないが、本校の校歌には漱石の影響が垣間見えるような気がする。

ただ、晩翠と漱石の「因縁」は根深い。漱石の死後、夫人が「生前漱石は『晩翠が自分を蹴落として東大教授に就くために、ロンドンで漱石が発狂したという電報を日本に打った』と思っていた」という話を発表するのである。さすがの晩翠もこれには憤りを押さえ切れず反論……、真偽は不明だが、私は夫人の作り話ではないかと疑っている。

いずれ、秋高の校歌からは、漱石をはじめとする明治の最も優れた知性や精神の雰囲気が感じられ、非常に好もしい。五番まで歌って初めて一篇を為すこの歌詞は、まさに起承転結の構成を持つ一篇の漢詩である。生徒諸君には今後も、校歌は是非五番まで歌ってほしい。

最後に、同窓会の皆様方へ心からの感謝を捧げ、お礼の言葉といたします。3年間有り難うございました。

平成26年度進路状況

東大9人、東北大50人 医学部医学科51人合格

今春卒業生の概況

今年の卒業生総数は309人。国公立（管外大含む）大学合格者は総数168人（昨年比＋19）で、内訳としては前期95人、後期38人、独自日程2人、推薦AO33人でした。私立大学合格者延べ数は168人（＋45）で、推薦・AO14人でした。進学者は国公立大学158人（＋20）、私立大学50人（＋11）で、合格率72・4％、進学率58・8％という結果になりました。

3月卒業生の合格者数は別表のとおりになります。東京大学は3人（±0）、東北37人（＋4）、秋田40人（＋13）、新潟22人（＋9）、国公立大学医学部医学科は26人（＋19）となりました。また、北海道9人、東京学芸・宮城教育各7人、国際教養3人、京都2人、お茶の水1人。さらに、私立大学では、早稲田14人（＋1）、慶應義塾5人（＋2）、明治15人（－1）、中央13人（＋5）、東京理科・法政各9人という状況になっております。

過年度卒業生の概況

国公立大学の合格者は、秋田25人、東北13人、東京6人、新潟・東京学芸各6人、北海道4人、京都2人、大阪1人などの成果をあげています。私立大学は表をご覧ください。とにかく、第一志望にこだわって目標を下げずに努力した成果が表れてきているものと考えられます。

平成25年度入試の特徴

東京大学合格者は、現役3人＋過卒6人の合わせて9人でした。全国的に地方の公立高校が苦戦しているなか、東北地区では2番目の合格数であり健闘したといえます。

東北大学の合格者は、現役37人＋過卒13人の合わせて50人でした。特に医学部医学科は現役4人＋過卒1人の5人は特筆すべき成果であったといえます。

医学部医学科の合格者については、現役26人＋過卒25人の合わせて51人であり、記録に残っているなかでは過去最高の成果をあげております。